

## JENESYS2025 日本・ASEAN 同窓生のオンライン学生会議 フォローアップ事業の記録

### 1. プログラム概要

#### 【目的・概要】

ASEAN 地域の同窓生を対象に、2月16日から20日の間、「地方創生・地域振興」「気候変動・防災」「ビジネス・経済連携」に関する講義やワークショップ、関係者との交流等を通じて、各テーマへの理解を深めるとともに、同窓生同士のネットワーク構築を図ることを目的として実施しました。

【参加者】ASEAN 諸国、日本の JENESYS ASEAN 同窓生 合計 44 名

(内訳) インドネシア 6 名、カンボジア 3 名、シンガポール 2 名、タイ 1 名、東ティモール 7 名、フィリピン 7 名、ベトナム 3 名、マレーシア 6 名、ミャンマー 6 名、日本 3 名

#### 【グループ参加人数】

①地方創生・地域振興 5 名、②気候変動・防災 16 名、③ビジネス・経済連携 23 名

#### 【日程】

##### ■ オンライン学生会議

2月16日(月曜日)

#### 【オリエンテーション】

#### 【テーマ関連講義】

①地方創生・地域振興「持続可能な観光：管理を通じた再生」

講師：日本アセアンセンター 藤川 尚子 氏

②気候変動・防災「モンスーンアジアにおける気候適応を通じた貧困削減：ミャンマーとタイの事例」

講師：東京大学未来ビジョン研究センター  
大学院工学系研究科 社会基盤学専攻（兼任）  
川崎 昭如 教授

③ビジネス・経済連携「ビジネスと国際協力」

講師：独立行政法人国際協力機構（JICA） 東京センター 市民参加協力第二課  
村田 広志 氏

【参加者間交流】グループ別プログラム 自己紹介、意見交換

【ワークショップ】グループ別プログラム 問題の定義と分析

2月17日(火曜日)

#### 【テーマ関連講義】

①地方創生・地域振興「東南アジアにおける持続可能な観光開発」

講師：立命館アジア太平洋大学（APU） アジア太平洋研究科 サステイナビリティ観光学部（ST） ブイ・タン・フォン 教授

②気候変動・防災「学校における災害リスク低減の可能性：地理的理解を通じ

た防災リテラシー向上」

講師：東京大学大学院 総合文化研究科 広域科学専攻 広域システム科学系  
(人文地理) 小田 隆史 准教授

③ビジネス・経済連携「日本とASEANの関係性」

講師：株式会社ジェネシア・ベンチャーズ アエロ・アリボウオ氏

【ワークショップ】グループ別プログラム 課題・原因の分析

2月18日(水曜日)

【文化体験】書道

講師：NPO 日本文化体験交流塾 山口 和加子 副理事長

【ワークショップ】グループ別プログラム 解決策のアイデア出し

2月19日(木曜日)

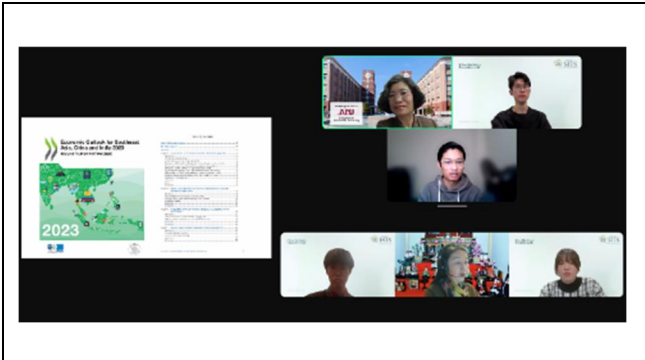
【ワークショップ】グループ別プログラム 報告会準備(活動のとりまとめ、活動計画(アクション・プラン)の作成

2月20日(金曜日)

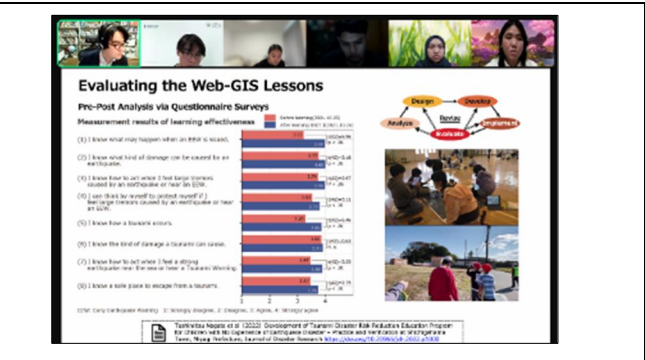
【報告会】活動成果・アクション・プランの発表

## 2. 記録写真

|                                                                                     |                                                                                      |
|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
|   |   |
| <p>2026年2月16日【テーマ関連講義】①地方創生・地域振興「持続可能な観光：管理を通じた再生」</p>                              | <p>2026年2月16日【テーマ関連講義】②気候変動・防災「モンスーンアジアにおける気候適応を通じた貧困削減：ミャンマーとタイの事例」</p>             |
|  |  |
| <p>2026年2月16日【テーマ関連講義】③ビジネス・経済連携「ビジネスと国際協力」</p>                                     | <p>2026年2月16日【参加者間交流】</p>                                                            |



2026年2月17日【テーマ関連講義】①地方創生・地域振興「東南アジアにおける持続可能な観光開発」



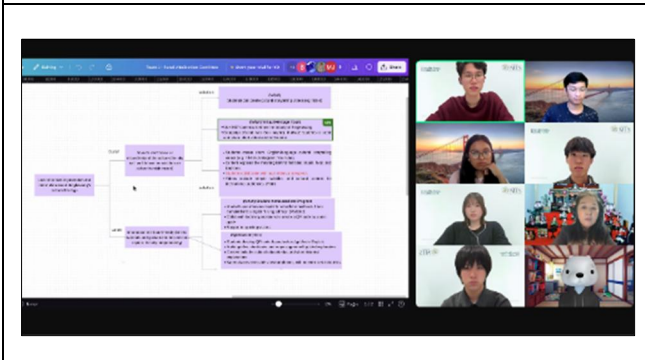
2026年2月17日【テーマ関連講義】②気候変動・防災「学校における災害リスク低減の可能性：地理的理解を通じた防災リテラシー向上」



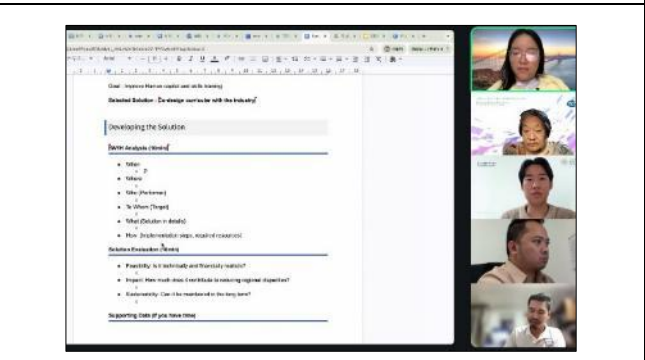
2026年2月17日【テーマ関連講義】③ビジネス・経済連携「日本とASEANの関係性」



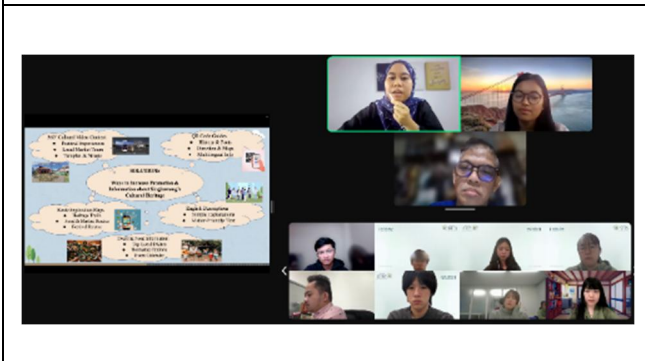
2026年2月18日【文化体験】書道



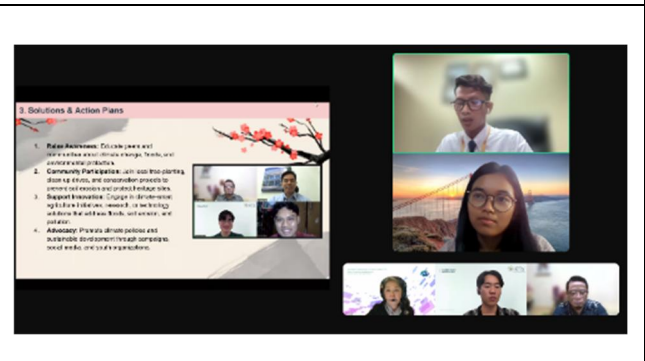
2026年2月18日【ワークショップ】



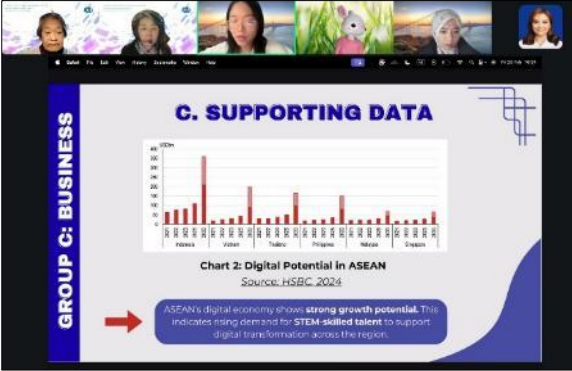

2026年2月19日【ワークショップ】



2026年2月20日【報告会】  
①地方創生・地域振興



2026年2月20日【報告会】  
②気候変動・防災

|                                                                                   |                                                                                    |
|-----------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
|  |  |
| <p>2026年2月20日【報告会】<br/>③ビジネス・経済連携</p>                                             | <p>2026年2月20日【報告会】記念撮影</p>                                                         |

### 3. 参加者から寄せられた質問・関心事項（抜粋）

- ◆ ①地方創生・地域振興 日本アセアンセンター藤川 尚子 氏の講義「持続可能な観光：管理を通じた再生」について
  - ・ 政府はエコツーリズムに関して民間セクターをどのように支援していますか。
- ◆ ②気候変動・防災 東京大学大学院 総合文化研究科 広域科学専攻 広域システム科学系（人文地理）小田 隆史 准教授の講義「学校における災害リスク低減の可能性：地理的理解を通じた防災リテラシー向上」について
  - ・ カンボジアの大学で WebGIS（注）を教育に効果的に取り入れる方法がありますか。
  - ・ カンボジアの授業で WebGIS を実行するための教育的モデルは何ですか。
  - ・ WebGIS を授業に導入するにあたり、教員にあらかじめどのような能力が必要とされますか。

（注）WebGIS：インターネット（Web）上で、地図データと様々な情報を重ね合わせ、高度な分析や共有を可能にするシステムのこと
- ◆ ③ビジネス・経済連携 株式会社ジェネシア・ベンチャーズ アエロ・アリボウォ氏の講義「日本とASEANの関係性」について
  - ・ ASEANにおけるスタートアップ企業に対して、どのように必要な資金供給や戦略的支援が提供されていますか。

### 4. 参加者の感想（抜粋）

- ◆ マレーシア 大学院生

「地方創生・地域振興」に関して、藤川氏からは旅先（訪問先）の精神を守る方法を、ブイ博士からはそのシステムを進化させる方法を教えていただきました。二人が共に描く未来像では、旅行は単なる取引ではなく、癒しと遺産を守るための手段となるということ学びました。
- ◆ ベトナム 社会人

「地方創生・地域振興」をテーマのもと、日本とASEAN諸国が、災害から復興にいたるまでの方法について、多くのことを学びました。中でも2011年東日本大震災（東北地方）からの教訓を振り返りました。私が最も感銘を受けたのは、復興が単なるインフラの再建にとどまらず、コミュニ

ティの再生、地域アイデンティティの強化、持続可能で革新的な方法による観光の活性化を包含しているという点でした。技術を活用して地域文化を保存・促進し、伝統を次世代へ伝える方法にも興味を持ち、伝統の真髄を守りつつ、より多くの人々が触れられる形での継承が重要であることも学びました。

書道体験も貴重な文化的体験となりました。

今後さらに多くのイベントに参加したいと考えています。可能であれば東京での対面プログラムに参加できることを願っています。

◆ **大学生 シンガポール**

このプログラムは、特に日本が教育制度を通じて防災対策をどのように導入しているかについて学ぶことができ、非常に示唆に富む内容でした。

◆ **マレーシア 大学生**

気候変動は非常に興味深いテーマです。洪水が発生しやすいマレーシアに住んでいる者として、災害による大きな被害への備えや予防策は、日本とは異っています。そのため、このプログラムを通じて、自国では得られなかった多くの学びを得ることができました。日本の施設やその他の大規模災害への備え、災害後の対策についてさらに詳しく知りたいと思っています。

◆ **ベトナム 大学生**

経済学の基礎知識がないため、このプログラムに参加するにあたり、かなり緊張していました。しかし講義は両方とも分かりやすく、テーマについて多くの知見を得ることができました。このプログラムに参加して本当に良かったと思います。

◆ **東ティモール 大学生**

JENESYS プログラムで、示唆に富んだ多くのセッションを提供していただきありがとうございました。特に地域協力、文化交流、そして ASEAN と日本の関係強化における若者の将来の役割を理解する上で、講義が「学術的な知見」と「実践的な視点」を融合した内容であったことに感銘を受けました。

このプログラムを通して、国同士の協力、変革、相互尊重の重要性について、視野が広がりました。東ティモールからの参加者として特に印象的だったのは、新しい加盟国や若手リーダーたちが、地域の発展と共通の繁栄をどのように貢献できるかが示されていた点で、強く刺激を受けました。

5. **受入れ側の感想（抜粋）**

◆ **講師**

優秀な ASEAN の学生に対して日本の取組みを広報できる貴重な機会を頂きありがとうございました。難しい部分も多かったかと思いますが、開発協力について少しでも理解が深まれば嬉しいです。

◆ **講師**

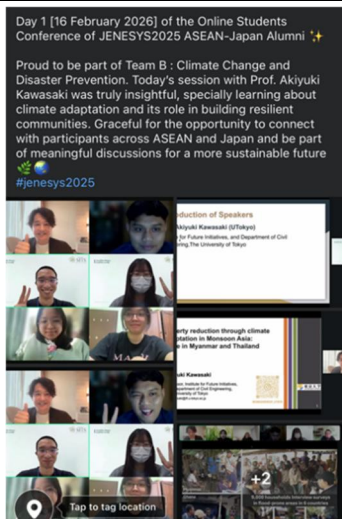
皆さまのご支援のおかげで無事にオンラインで書道体験ができて安堵しております。生徒の皆様との質疑応答なども前回よりスムーズに実施できたかと存じます。

## 6. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| <p>2026年2月17日（Facebook）<br/>マレーシア 大学院生<br/>講演：藤川氏（日本・ASEANセンター）<br/>この意義深いプログラムに参加でき、大変光栄に思います。心理学を学んでいる学生として、地域開発とはインフラや経済だけでなく、人々、マインドセット、アイデンティティ、そして集団の幸福に関わるものであると常に考えてきました。だからこそ、心理学が地域活性化にどう応用できるかを探求することにワクワクしています。</p> <p>本日の講演は大変示唆に富み、日本が文化を中心とした発展を保ちつつ、地域を活気ある観光地へと変革しながら遺産を保存する手法を示していました。</p> <p>特に印象的な事例として挙げられるのは：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小津城（日本）— 美しく修復され、宿泊も可能で、訪問者を侍時代の雰囲気味わわせてくれる。</li> <li>・城崎温泉（日本）— 駅が玄関口となり、街路が廊下のようにつながる、巨大な旅館のような町。</li> <li>・ジャティルイの棚田（インドネシア）— 観光は「副次的な収入源」であり、真の優先事項はスバク（灌漑システム）と祖先の伝統の保護です。</li> <li>・タンホア（ベトナム）— 洪水被害の多い地域を、創造的で気候変動に適応した観光によって目的地へと変貌させました。</li> </ul> <p>もちろん、探求する価値のある例は数えきれないほどあります。</p> <p>また、自国であるマレーシアについても考えずに</p> | <p>2026年2月20日（Instagram）<br/>ベトナム 社会人<br/>「気候変動・防災」をテーマに、日本とASEAN諸国が災害後にどのように復興するかを多く学びました。特に2011年の東日本大震災（東北地方）からの教訓を振り返りました。</p> <p>最も感銘を受けたのは、復興がインフラの再建を超え、コミュニティの再生、地域アイデンティティの強化、持続可能で革新的な観光の活性化を含む点です。</p> <p>技術を活用して地域文化を保存・促進し、伝統を次世代へ伝える方法にも興味を持ちました。伝統の真髄を守りつつ、より多くの人々が触れられる形にする取り組みです。</p> <p>書道体験も貴重な文化的体験でした。今年一番気に入った漢字は？「再生」です。この言葉は、まさに不屈の精神と再生の力を体現しています。</p> |

はいられませんでした。キャメロンハイランズ、マラッカ、サバ、サラワクなど、多くの地域が計り知れない可能性を秘めています。観光客を呼び込むだけでなく、マレーシアの持っているユニークな価値をより多くの人へ理解してもらい、魅力を感じてもらえるよう、もっと発信していけたらと願っています。

今日の学びを通じて、チャンスというものは常に存在していて、発見され、形作られるのを待っているのだと改めて感じました。政府と地域社会の双方からの意識、取り組み、そして思いやりがあれば、地域の再生はきっと大きく花開くはずです。結局のところ、国を前進させるには一人ひとりの役割が欠かせないのだということです。2 日目にこのテーマをさらに深く掘り下げるのが待ちきれないです。

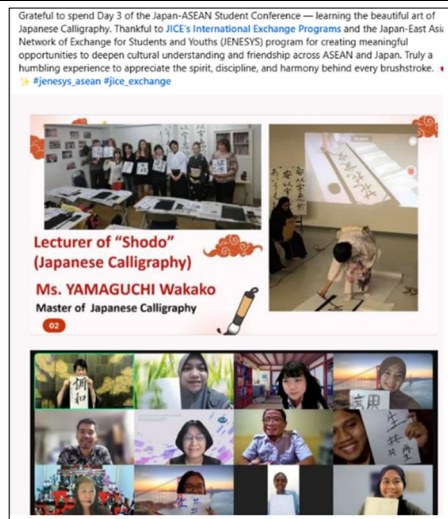


2026年2月16日 (Facebook)

東ティモール 大学生

JENESYS2025 日本・ASEAN オンライン学生会議 1日目

チーム B「気候変動と防災」の一員であることを誇りに思います。川崎昭如教授の本日のご講義では、特に気候変動への適応策と、復興可能なコミュニティ構築におけるその役割について学ぶことができ、非常に示唆に富むものでした。ASEANと日本の参加者たちと交流し、より良い未来に向けた有意義な議論に参加できたことを光栄に思います。



2026年2月18日 (Facebook)

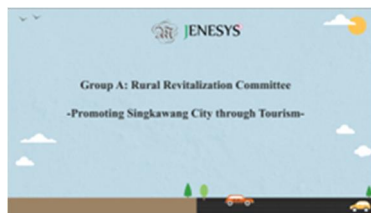
フィリピン 社会人

日本・ASEAN 学生会議 3日目を、日本の美しい芸術である書道を学ぶ機会に恵まれ感謝しております。JENESYS プログラムが、ASEANと日本の間で文化理解と友情を深める意義ある機会を創出して下さったことにお礼申し上げます。筆の運び一つ一つに込められた精神、規律、調和を実感する、心から謙虚な気持ちにさせられる体験でした。

## 7. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（抜粋）

### 全4グループ発表

#### グループ①地方創生・地域振興



#### 【成果の発表】

観光は、地域の歴史・文化・自然と人々が相互に影響し合うシステムとして成り立ち、地域の幸福と持続性を大切にすべきであると学びました。魅力は新しく作るのではなく、日常生活や伝統の中にすでに存在する独自の価値を見出し、育てていくことが重要です。また、観光は復興支援や環境学習にもつながり、デジタル技術の活用によって多様な観光体験が生まれる可能性が広がることを理解しました。

#### 【アクション・プラン】

- ・ 地域協働による基盤整備：最初の4か月で行政・住民・事業者の協議体をつくり、課題の共有と文化資源のデータ収集を行い、観光開発の基礎を固めます。
- ・ デジタル観光資源の制作：5～6か月以内に360度映像、QRガイド、観光ルートマップ、多言語説明文を制作し、誰でもアクセスできるデジタル観光プラットフォームを構築します。
- ・ 公開・改善サイクルの確立：7か月目に公開とプロモーションを行い、その後は利用者データをもとに地域と連携して改善を続け、持続可能な観光モデルとして定着させます。

#### グループ② - 1 気候変動・防災



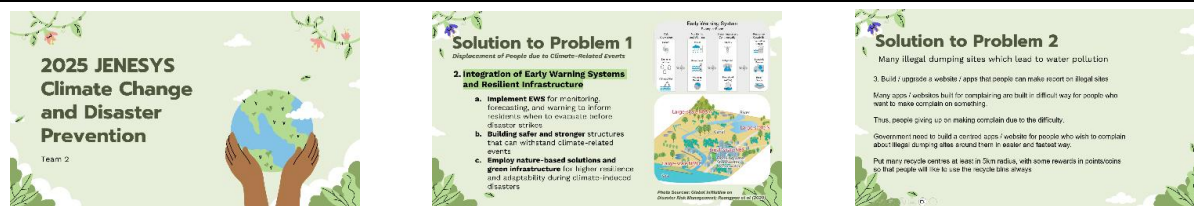
#### 【成果の発表】

東日本大震災を契機に、防災は画一的方針から地域事情に基づく仕組みへ転換され、地理学とGISは災害リテラシー向上に重要な役割を果たしています。一方で、教員の制約や知識格差などの課題が残っています。災害は貧困層に深刻な影響を与え、復興にも長い時間を要します。脆弱層の生活改善を軸とした、公平性を重視する統合的なDRR（防災・減災）が求められます。カンボジアでは豪雨が農業や文化遺産に被害を与えており、気候変動への対策が急務となっています。

#### 【アクション・プラン】

- ・ 森林破壊地域での植林と地域協働を進め、自然保護や文化遺産の再建維持に住民参加を促進します。
- ・ 気候変動や洪水に関する教育を強化し、植樹や清掃などの保全活動への参加を広げます。
- ・ 気候適応型農業や技術開発を支援し、キャンペーンやSNSを通じて気候政策と持続可能な開発を推進します。

## グループ② - 2 気候変動・防災



### 【成果の発表】

災害リスクは地域ごとに異なるため、国全体の指針だけでは十分でなく、地理教育や GIS の活用が防災力向上に重要であることを学びました。また、学校は地域コミュニティ再構築の中心的役割を担い、危機意識の醸成が不可欠であると理解しました。さらに、気候変動と貧困は密接に関連し、経済的制約が復興の遅れや貧困の連鎖を生むため、気候適応への投資や社会システムの変革によって好循環を作り出す必要があることを学びました。

### 【アクション・プラン】

- ・ 気候災害による避難を減らすため、リスクに基づく土地利用計画の策定や早期警報システムと強靭なインフラの整備が必要です。
- ・ 水質汚染の原因となる不法投棄については、法律の厳格化、人員動員の効率化、通報アプリの整備、市民教育の強化に取り組みます。
- ・ 地球温暖化対策として再生可能エネルギーへの移行や持続可能な交通・消費、森林再生、CCS（炭素回収・貯留）導入など、状況に応じた戦略を実施します。

## グループ③ビジネス・経済連携



### 【成果の発表】

◆ JICA 村田氏の講義についての学び  
ASEAN は単一市場ではなく、企業は文化の違いを尊重し、現地のニーズに適応すべきであり、若年層人口と成長市場による ASEAN の巨大な潜在力を認識し、持続可能な開発のためには雇用創出が重要であるという点が強調されていました。

◆ ジェネシア・ベンチャーズ社 エアロ氏の講義についての学び  
日本と東南アジアが相互補完的なエコシステムを有すること、また、ASEAN が巨大な市場規模と人口構成上の優位性を所持していることから、現地化と戦略的セクターの差別化を通じて、日本企業に強力な投資機会を創出していることを学びました。

### 【アクション・プラン】

私たちは「ASEAN 包括的 STEM 学習ネットワークの強化」を提案します。  
グループ全員が、地域レベル（1-6 か月）完了後、国レベル（7-12 か月）、合わせて1年かけて、オンラインと地域学習拠点のハイブリッド型でスタートし、段階的に国レベルに拡大します。優先対象の低所得層、又は非都市部の大学に通う学部生に対して、STEM 教育、起業家精神、デジタルリテラシー、ソフトスキルに関する体系的なトレーニングを提供します。

協力団体：特定非営利活動法人 MIS（Multilateral Interaction with Students）

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）